

令和5年度地区懇談会（富岸地区） 議事録（概要）

令和5年10月3日（火） 18:00～19:30

富久寿園 出席者20名

6. 個別避難計画の策定に向けた取り組みについて

意見：富岸地区連合町内会長

- ・ 個別避難計画の作成に当たり、現在の要支援者名簿に載っている方の中から本当に支援を要する方を選ぶ必要が出てくるが、要支援者名簿の登録者は非常に多く年々増える一方である。
- ・ 町内会でできる支援にも限りがあり、個別避難計画の作成に要する精査については、役員や町内会の方と話し合い、市の担当者とも意見交換をして行っていきたい。

回答：総務部次長

- ・ 現在の名簿登載者は1万人を超えている。このことから、いただいた意見は大きな課題であり、今後防災担当と町内会で具体的な打ち合わせをさせていただきたい。

8. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項

（1）富岸小学校の付近に「児童館」をつくってほしい

質問：富岸地区連合町内会長

- ・ 令和4年度と同様、富岸小学校の近くに児童館を設置してほしいという要望である。廃止となった旧富岸青少年会館の一部を利用して富岸児童クラブが設置され、そこに現在72名の子どもが通っているが、十分な広さがあるのか疑問がある。
- ・ 児童館の新規建設が難しいのであれば、小学校の空き教室などを解放し、十分な広さの中で子どもが生活できるよう考慮していただきたい。
- ・ 富岸地区は、小・中学校と教育機関が多い地域であり、子どもがのびのび過ごせるような施設が必要であると考え、児童館設置を要望する。

回答：保健福祉部次長

- ・ 富岸地区における新しい児童館の検討については、放課後児童クラブも含め、小学校区に一つ設置することを基本とし、学校内、学校敷地内、学校周辺地など、子どもたちが安全に安心して利用できる環境を構築したいと考えている。
- ・ 富岸小学校区の子育て支援施設については、栄町の富浜児童館と富岸小学校隣接地の富岸児童クラブがあるが、富浜児童館は老朽化が進み、学校からの距離も近いとは言いがたい状況。また、富岸児童クラブは旧富岸青少年会館の用途廃止に伴い、体育館の利用ができない状況となっていると認識している。
- ・ 富岸小学校区は、市内において児童生徒が多い校区であり、子育てに優しいまちを目指すうえで、子育て支援施設が必要であることは、皆さんと同じ思いである。

- ・ 現在、令和7年度予定の幌別東小学校と幌別小学校の統合にあわせ、幌別小学校敷地内に幌別児童館と常盤児童館、放課後児童クラブの機能を併せ持つ児童館を令和6年度中の開設に向け取組を進めている。
- ・ また、消防本部新庁舎の整備や新しい幌別児童館の整備、市役所新庁舎の整備など大型の公共施設の整備を計画している状況下において、現時点で具体的な整備スケジュールなどをお伝えするのは難しいと考えているが、富岸地区の子育て支援施設の必要性は十分に認識しており、他の子育て支援施設、公共施設の整備状況や財政状況などを踏まえ、令和6年度見直しを予定する中期財政見通しや大型事業推進プランなどの中でお示しできるよう取組を進めていきたいと考えている。

意見：富岸地区連合町内会長

- ・ 財政状況もある中、すぐに施設を整備するのは難しいと理解している。しかし、人口減少が加速する中、子育てしやすいまちには若者が増える傾向にあると聞いている。
- ・ 子育て世帯に優しいまちという状況が今後の登別市には大事だと考えるので、よろしくをお願いしたい。

8. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項

(2) 国道36号線からJR室蘭本線を跨ぐ立体交差橋の早期建設を要望する

質問：富岸地区連合町内会長

- ・ 国道36号線からJR室蘭本線を跨ぐ立体交差橋について、富岸地区連合町内会の長年の要望事項として市との意見交換の場で長年要望を行ってきた経緯にある。今後想定される日本海溝・千島海溝地震での津波災害で、多くの犠牲者が予想されると北海道から公表されている。そのため、国や道に対してどのように要望しているのか聞きたい。

回答：都市整備部次長

- ・ 登別地域における国道36号と道道上登別室蘭線を結ぶ鉄道横断立体交差橋については、地域の暮らし支える交通環境の形成のみならず、登別市の道路ネットワークの構築の観点から必要なものと捉えている。また、津波災害時の避難路としても寄与することが考えられることから、平成25年度より室蘭建設管理部登別出張所管内社会資本整備推進会議や室蘭地方総合開発期成会などを通じて、北海道などに対し繰り返し整備要望を行っているところ。
- ・ 北海道からは、「立体交差橋の建設に当たっては、周辺環境の変化であつたり交通量の増加といったことが大きな要因となることから、これらの推移などを勘案しながら、市のまちづくり計画と連携し検討してまいりたい」との回答をいただいているので、今後も整備の実現に向け、引き続き北海道などに対し要望していく。

その他：市内小・中学校の空調整備について

質問：汐平町内会長

- ・ 8月に伊達市で小学生が熱中症とみられる症状で亡くなるという痛ましい事故があったが、それを受け、登別市でも小・中学校にエアコンの設置を検討しているという報道を見た。実際の計画などの状況をお聞きしたい。

回答：教育部長

- ・ 現在、空調整備に関して見積をとっているところ。学校は階層によって設置経費が変わってくる。そういったところも含め計画を進めている。
- ・ 学校ごとに設置できる、できないなど差がないよう、見積や施工方法などを確認しながらできるだけ早い整備に向け検討している。

回答：市長

- ・ 伊達市の事故の後、道内179市町村が集まり国の補助を付けてもらえるよう働き掛けている状況。令和5年度中に予算化を行い、令和6年度の夏までに設置が間に合うよう補助の要望を行い、回答を待っている。

回答：総務部長

- ・ 先ほどの児童館整備の件でも述べたが、市内では新庁舎建設を始めとした大型事業が複数進んでおり、費用としては厳しい状況である。しかし、子どもたちの安全を考えたときに、どうにかしなければならないと思っている。
- ・ 一方、全校一斉にということは難しいという見方もあり、他市のようにスポットクーラーでの暫定的対応も含め検討していきたい。